

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 1 月 17 日作成)

小委員会名	環境心理小委員会		主 査 名：宗方 淳 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)		委員長名：久野 覚 主 査 名：大井 尚行
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>人間・環境系を総合的に扱う環境心理研究の研究成果を整理・発展させる組織的取り組みを行う。</p> <p>2009 年度 現在までの研究状況の整理、活動体制の検討</p> <p>2010 年度 今後取り組むべき課題の検討、研究発展のための方策検討</p> <p>2011 年度 今後取り組むべき課題の研究促進、研究発展のための方策実施（シンポ、出版等）</p> <p>2012 年度 3 年度目までの活動を継続。成果の検証・次期小委員会に向けての問題整理</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>宗方 淳 (千葉大学)、小島 隆矢 (早稲田大学)、古賀 誉章 (東京大学)、佐野 奈緒子 (東京電機大学)、渡辺 秀俊 (文化女子大学)、榎 究 (実践女子大学)、高橋 正樹 (文化女子大学)、上野 佳奈子 (明治大学)、高橋 浩伸 (九州大学)、辻村 壮平 (東京電機大学)、大石 洋之 (広島大学)、橋本 都子 (千葉工業大学)、稲生 克義 (東京電機大学)</p> <p>委員公募の有無：有</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2010 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. なし
講習会	1. 第 10 回環境心理生理チュートリアル 参加者数 86 名
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. なし
大会研究集会	1. なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 当委員会が中心となって企画・実施した環境心理生理チュートリアルは、前回・前々回を大幅に上回る多くの参加者を得た。参加者の多くは心理評価手法を用いるが必ずしも環境工学分野の者ではなく、結果的に本小委員会の分野横断的な貢献となったと思われる。</p> <p>2. 次年度に向けてのチュートリアル企画について検討を行った。</p>
委員会活動の問題点・課題	特になし

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2010 年度環境心理小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
<p style="text-align: center;"><b>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</b></p>	<p>本小委員会が主体となって毎年企画運営している環境心理生理チュートリアルは、より実践的かつ初学者向けの講習会という性格のもと、個別の調査手法や分析手法に関するテーマ毎回選定している。昨年度のテーマであるアンケート調査の延長として、本年度は、定型自由記述による調査方法の紹介、得られたデータの処理方法や分析方法のノウハウ、および定型自由記述ではない一般的な自由記述からのデータの読み取り方法に関する講演が行われ、その後、会場から回収した質問表に書かれた内容をベースにして講師及び出席者との議論や意見交換・情報交換を行った。今回のテーマである自由記述は、インタビュー・ヒアリング・アンケート調査のいずれにも関係するデータ取得方法にも拘らず、その処理方法についての参考文献も少ないためか、今回の出席者数は前回までを大きく上回るものとなった。会場となった建築会館3階会議室の許容量(机を搬出して90名)のぎりぎりであったが、狭い会場故に講師側と出席者との間の距離も近く、会場から出た質問も内容が非常に豊かなものになった。また、参加者の中には環境心理生理運営委員会の活動とは日頃縁の無い環境工学の他分野や建築計画学等の環境工学分野ですらない者も多く見られ、結果的に分野横断的な交流の場ともなった。</p> <p>なお、実施時に配布した資料は、昨年度の企画と同様にこのチュートリアルのためにそれぞれの講演者が書き下ろした内容となっている。既に二つのテーマによりそれなりの質と量になっており、近い将来の出版へ向けて確実な進展を遂げていると自負できる。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。